

和白干潟通信

愛して、わじろ



No.148

2024年1月16日
発行: 和白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>



きりえ「ハmanaデシコ咲く和白干潟」：くすだひろこ

平和を願って！

新年 おめでとうございます！！

2024年 1月

年明けから災害や事故などが立て続けに起きました。これ以上災害等起こらないことを祈るばかりです。1日も早い復旧復興を祈ります。

昨秋の「第35回和白干潟まつり」は、お天気も良くて大成功でした！570名の方々が和白干潟に触れ合う1日でした。一昨年秋はアオサの発生が少なかったのですが、昨秋はアオサが多く発生して強風で干潟沿岸に押し寄せていました。クロツラヘラサギが多く飛来し最大31羽、ミヤコドリは26羽、ツクシガモは2023年11月20日が初認で2024年1月2日現在145羽です。温暖化のためか、秋の渡りのオオソリハシシギが11月中も見られました。

和白干潟を守る会の環境保全活動は36年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けることができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり、クリーン作戦、鳥類調査、水質・砂質調査、和白干潟通信やパンフレットの発行、ホームページでの広報などの多くの活動をしてきました。今後も和白干潟が将来に渡って保全されるように、和白干潟がラムサール条約に登録されるよう活動をしていきましょう！

「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和白干潟の保全5グループと個人が連携して、立花山から和白干潟の集水域保全活動を続けています。世界ではウクライナを始め、いくつも戦争が起っています。戦争は最大の環境破壊です！日本も戦争ができる準備が進んでいるようで心配です。

2024年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。36年目の今年も、和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方に和白干潟の環境保全活動に参加していただき、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！

今年もどうぞよろしくお願いいたします！



第35回 和白干潟まつり（11月26日）



第35回和白干潟まつりは大成功でした！お天気が良くて暑いくらいの陽気でした。約570名の参加があり、特に子供たちが多く参加してくれたのが、嬉しかったですね。鳥たちも良く見られ、お魚水槽展示やヒトデなどのタッチプールも人気でした。バードウォッチング、植物観察、干潟の生きもの観察、自然遊びなどにもたくさん参加いただきました。コロナが落ち着き、今回は食べ物の出店もあり、安心して過ごせました。手作りの小物の出店が多かったです。子どもたちもマジックをしたり店を出していました。ステージもコーラスやエプロンシアター、マジックなど、干潟の前で楽しく過ごせました。1年に1度会う方々に懐かしく挨拶しました。反省会、後片付けなど最後まで力を合わせて頑張りました。事前の会場整備では（株）環衛サービスの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。（実行委員長：山本廣子）



●開会式

干潟まつりを開会し、35回目の節目のお祝いとラムサール宣言をしました。



●バードウォッチング

望遠鏡でカモなどを観察、49種確認しました。お子さんから高齢者の方まで65名の参加でした。



●自然あそび

堀講師指導で自然界での「保護色」や「擬態」を人工物探しゲームで体感しました。44名参加。



●植物観察

野村講師の案内で海の広場からアシ原に入り、干潟の植物についての楽しいお話を聞きました。19名参加。



●干潟の生きもの観察

道山講師の案内で砂浜を掘り、カニや貝やゴカイ等の干潟の生きものを見つけました。子どもの参加が多く、全体では40名参加。



●お魚水槽・タッチプール

マリンワールドはキスなどの魚やヒトデなどを展示。ヒトデには触れることができ、子どもたちに人気でした。



●ギター弾き語り

堀さんがギターを弾きながら「誰もいない海」などの曲を歌いました。トークも絶妙でした。



●エプロンシアター

エプロンの和白干潟に手作りの干潟の生きものたちが、潮の満ち干に合わせて現れました。



●紙芝居

「コメツキガニのたび」の紙芝居、子供たちも森さんの話に引き込まれ聞き入っていました。

ラムサール条約登録を目指して・・・570人参加（今林 眞由美）



●九州青年合唱団

「ミヤコドリ」「和白の春」など5曲を感情豊かに披露、素晴らしいハーモニーでした。



●マジックショー

マジシャン・ひろさんが和白干潟に関連したマジックを披露、子供たちも楽しんでいました。



●一言アピール

6団体がそれぞれの活動や今回のバザーについて、大きな声でアピールしました。



●心を合わせて

みんなで和白干潟に向かって「ぼくらはみんな生きている」「海」を歌いながらお遊戯をしました。



●干潟の掃除

35名の参加で、海の広場の前のアオサなどをソリで25杯分回収しました。



●写真展・パネル展

和白干潟の自然アルバムの写真や、守る会と山・川・海の流域会議の活動のパネルを展示しました。



●模擬店・バザー

19店出店、今年は弁当、サンドイッチ、豚汁など食品も出店して、どこも賑わっていました。



●その他のブース

ワークショップや展示とパフォーマンスの参加もあり、沢山の人で賑わっていました。

第35回 和白干潟まつりラムサール宣言（抜粋）

1. 私たちは、これからも大切な和白干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けて行きます。
2. 福岡市に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請の方針を定め、具体化に向けて早急に取り組むことを求めます。それと同時に、市民に向けて、和白干潟が福岡市の貴重な自然であり、保全の大切さを理解できる取り組みを進めることを求めます。
3. 福岡県に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請を福岡市へ働きかけることを求めます。
4. 環境省に、「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請を福岡市へ促すことを求めます。

2023年11月26日 第35回和白干潟まつり参加者一同

福岡市長からのメッセージ

第35回和白干潟まつりの開催をお慶び申し上げます。和白干潟まつり実行委員会の皆様をはじめ、参加者の皆様におかれましては、長年にわたり、干潟の清掃や自然観察会など、和白干潟の環境保全活動に取り組んでおられますことに、心より敬意を表します。福岡市におきましても、自然を回復軌道に乗せるため、生物多様の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ」の実現に向けて、多様な主体と連携し、生物多様性の社会への浸透や積極的な環境保全活動につながる取り組みを推進しております。和白干潟まつりをきっかけに、博多湾の環境保全の取り組みが広がり、和白干潟の自然が次の世代に引き継がれていくことを祈念いたしております。

令和5年11月26日 福岡市長 高島 宗一郎



ハマボウの紅葉

アオイ科 絶滅危惧 類(福岡県)



ハマボウの紅葉

海水の影響を受ける河口や海岸の砂泥地に生える落葉低木です。河口域の開発や護岸工事により自生地が減少しています。福岡県内では糸島市雷山川下流の群落地が有名です。7月頃に直径6cm程の黄色の花が次々に咲きます。和白干潟沿岸では27年ほど前に牧の鼻の海岸で1株を見つけました。その後増えて、今では500株以上の大群落地になりました。自生地を広げて、唐原川河口や海の広場付近でも黄色い花を咲かせています。ハマボウの木は11月には紅葉して、赤・黄色・緑が混じった美しい紅葉になります。和白干潟は自然海岸なので、ハマボウが気に入って、増えているのですね。

シオフキガイ

バカガイ科 殻長4.5cm 殻高3cm

本州以南の砂質底の潮間帯～水深20mに生息しているそうです。砂質干潟では普通に見られるそうですが、和白干潟では昨年位から良く見られるようになりました。以前は少なかったです。貝類も多くなったり少なくなったりするそうですね。ソトオリガイは以前はたくさんいたのですが、最近は余りいなくなりました。環境が変化しているのでしょうか。殻は前後に短いハマグリ形、よくふくらみ丸みがあります。色は白くてつやがあり、薄い殻です。軟体は橙色だそうです。現在はアサリと同じくらいに多く生息しているように思えます。エラに砂が多いので、生食には向かないそうですが、煮て食用になるのでしょうか。食べたことはありません。



シオフキガイ

クロツラヘラサギ

コウノトリ目トキ科 全長74cm

絶滅危惧 B類(環境省) 絶滅危惧 B類(福岡県)

クロツラヘラサギは1900年代から観察されるようになった鳥です。1988年に台湾や香港やベトナムで288羽が観察されており、今津で5羽が記録されています。和白での最初の記録は1997年の2羽です。それからしばらくは毎年世界一斉調査に参加して観察しました。その後ク



クロツラヘラサギ

ロツラヘラサギは増えて来て、2023年1月の記録では世界で6603羽です。日本では610羽でした。和白干潟でも毎年越冬していますが、最近では20羽を超える年が多くあります。昨年2023年秋では最大31羽を記録しました。ヘラサギが一緒にいることも多いです。ヘラ状の嘴を水に入れて左右に振りながら魚を獲る姿がとても可愛いです。昨年の11月、福岡市東区高美台にある大蔵池で休むクロツラヘラサギ5羽を観察しました。また午前中に和白の私の家の上空を和白干潟に向かって飛んで行くクロツラヘラサギの群れを何度も見ました。大蔵池から飛んできたのかもしれませんが。白く輝いて美しい鳥です。

「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める再要望書提出

昨年「和白干潟を守る会」は創立35周年の節目の年を迎えて、一日でも早い「ラムサール条約登録湿地」の実現を求め7月18日、福岡市長に要望書を提出しました。8月16日に市長の回答をいただきましたが、ラムサール条約についての回答や、具体的な保全方法や取り組みについての回答が無かった為、9月25日に再度要望書を提出しました。

10月25日、再回答書が届けられ「和白干潟の保全は福岡市が主体となって市民参加による干潟生物調査の実施や、地元公民館での野鳥観察会の支援など、市民に干潟の重要性についての啓発を引き続き行う。ラムサール条約登録については、将来的な課題であると考えている。」との回答となっています。これは過去15年間変わらないもので、私たちはこのままでは将来開発が進み、干潟は埋め立てられ、水鳥や底生動物、塩生植物など和白干潟の貴重な自然が守れなくなるとの危機感を感じています。

10/7 第11回 唐原川お掃除し隊(山・川・海の流域会議)



唐原川の川底に下りて清掃しました。参加者21名で48袋のゴミを回収。九産大から多数の学生が参加して、作業がとても進みました。地域の参加者は7人。作業中、ヤマトシジミがたくさん見られ、自然の回復が感じられました。大きな布のシートが埋もれていましたが、泥に埋まって大勢でひいても取り出せませんでした。来年はハサミを持参して切り取れるようにしたいと思いました。(山之内)

12/23 九州産業大学特別講義「和白干潟や地球の自然を守る」報告

学生他32名の参加でした(この他に講義資料を読んでレポートを提出した学生は44名)。スクリーンの映像やビデオで和白干潟の自然の豊かさと和白干潟を守る会の活動を紹介し、自然を守る人になってくださいと話しました。今年福岡市長に提出した「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書と回答書を読み上げました。クイズも交えて楽しく話しました。和白干潟の「きりえ」を紹介し、今世界で戦争が起こっているが、優しい気持ちを届けたいとBELIEVE(生き物地球紀行のエンディングテーマ)の歌をいっしょに歌いました。絵や音楽など思いを発信する方法はたくさんあるので、発信する人になってほしいと話しました。(今林)



和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

- ・10/13(一般財団法人)未来2016様よりご寄付をいただきました。
- ・12/14(公益財団法人)社会貢献支援財団様よりご寄付をいただきました。

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146(港湾空港局・維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時

092-282-7154(港湾空港局・みなと環境政策課)



＊ ＊ お 願 い ！ ！ ＊ ＊

- 干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう！
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

- 弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)
092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係



活動日誌

(山之内 芳晴)

●2023年9月

- 9/3 (日) 2023年度秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 9/9 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 9/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
2023年度秋期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 9/11 (月) イオンイエローレシートキャンペーン
- 9/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/15 (金) 2023年度秋期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 9/18 (月) 干潟通信147号 編集会議
- 9/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 9/24 (日) アオサのお掃除大作戦1回目(和白干潟保全のつどい)
- 9/29 (金) 2023年度秋期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)

●2023年10月

- 10/3 (火) 秋期シギ・チドリ報告書作成
- 10/7 (土) 唐原川お掃除し隊(山・川・海の流域会議)
- 10/10 (火) 和白干潟通信147号発送会
- 10/11 (水) イオンイエローレシートキャンペーン
- 10/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/14 (土) MS&ADホールディングスの自然観察会とクリーン作戦
- 10/21 (土) 「全国アマモサミットin福岡」参加
- 10/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/29 (日) アオサのお掃除大作戦2回目(和白干潟保全のつどい)
- 10/31 (火) 第2回和白干潟まつり実行委員会

●2023年11月

- 11/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/11 (土) 山・川・海の流域会議参加
イオンイエローレシートキャンペーン
- 11/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 11/23 (木) ダンロップグループの和白干潟の
クリーン作戦と自然観察
- 11/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 11/26 (日) 第35回和白干潟まつり
- 11/29 (水) 和白干潟通信148号編集会議

和白干潟の2023年5大ニュース

1. 第35回和白干潟まつりは大成功!
2. ラムサール条約登録を市長に要望した
3. クロツラヘラサギやミヤコドリなど鳥の飛来数が増えた
4. 若い人たちとの交流で新風が吹いた
5. コロナが5類に移行して活動がしやすくなった

(2023年12月16日の定例会議にて)

くすだひろこ きりえ展 ～和白干潟の風～



春の海辺(チュウシャクシギ)

和白干潟テーマの作品40点展示します。

会期：2024年1月27日(土)
～2月25日(日) 月曜休館
9時～17時(入館は16:30まで)

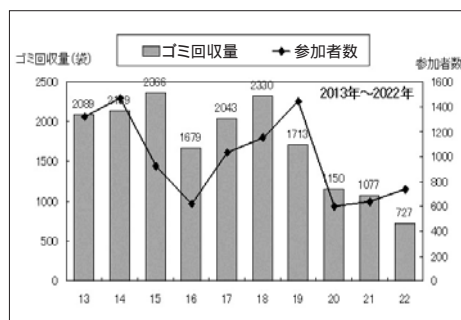
会場：新光産業きらら浜 自然観察公園
山口市阿知須509-53

入場料：200円(19歳以上)

TEL：0836-66-2030

干潟のつばやき「干潟のゴミが減っている！」

和白干潟では、毎月第4土曜日に守る会の人たちやボランティアの方達が浜辺のゴミを清掃しています。浜辺に打ち寄せられたペットボトルや飲料缶などのゴミ、これはどのようにして浜辺に打ち寄せられたのでしょうか。本来これらのゴミは、市のゴミ分別ルールに従って処理されていれば浜辺には存在しないものです。誰かが屋外に不法投棄したということです。右のグラフは、最近10年間のクリーン作戦参加者とゴミ回収量を表したものです。ゴミ回収量は2018年を頂点に年々減少しています。市民の皆さんの環境意識が高まっているということですね。干潟の生きものたちも大喜びです。



クリーン作戦参加者数とゴミ回収量

10/14「MS&ADホールディングス」118名(子ども28名)の観察会とクリーン作戦



コロナの影響などで5年ぶりの開催。雲が多めの晴天で、過ごしやすい1日でした。山本代表が挨拶し、1日のスケジュールを話して始めました。バードウォッチングの1番人気は、ミヤコドリ。望遠鏡で何度も観察する人もいました。アシ原では、子どもたちが大きなアシハラガニにびっくり。砂州ではコメツキガニを見つけ大喜び。アサリもいました。稚貝がたくさんみられました。ゴミを拾い、最後は紙芝居で干潟の生き物を紹介。熱心な子どもたちの様子が心に残りました。(今林)

11/23「ダンロップ九州」と「日本ユネスコ協会連盟」49名の観察会とクリーン作戦

晴天で活動しやすい天候でしたが、アオサが強風で打ち寄せられ沿岸に堆積していました。海の広場で、ユネスコ協会連盟の日下部さんからプロジェクト未来遺産について説明があり、山本代表とダンロップの代表の方の挨拶で観察会が始まりました。鳥の観察後、紅葉したハママツナを見ながら砂州で採取した干潟の生き物を紹介しました。ゴミ拾いでは、今年もカキがいっぱいついた古タイヤを回収。ソリやリヤカーでアオサも122袋分、回収できました。イオン環境財団からの視察を受けました。(今林)



12/2「バードウォッチングin和白干潟2023」参加報告



和白干潟を守る会や福岡市港湾空港局などで作る「和白干潟保全のつどい」主催のバードウォッチングは、寒いながら晴天の12月2日午前10時から開催されました。マガモ、ヒドリガモ、オナガガモなどのカモ達やミヤコドリ、クロツラヘラサギなど20種の鳥が観察されました。今回はビンゴカードを使っの鳥の説明やシール貼りなど楽しい企画と賞品が有り、参加者からは「初めて参加したが色々な鳥が見られて楽しかった。鳥を見て名前を知ることによって楽しみが増えた。」等の感想がありました。(山之内)

和白干潟と私

12(保全活動) 山本 廣子

和白干潟を守る会発足から20年くらいまでは活動への助成金の応募をするのに苦労していましたが、現在はイオン環境財団の継続的な助成を頂いているので、安定した活動を行うことができます。また企業やグループからの寄付もいただくことができ、以前のように活動資金で苦しむことは余り無くなりました。長い保全活動の継続により、様々な表彰を受けました。当初は活動資金に苦しんでいたの、賞金のついた表彰に応募してきました。1999年、朝日新聞社主催第2回「海とのふれあい賞」準賞受賞を初めとして16回表彰されています。2009年には「朝日新聞社」「森林文化協会」から和白干潟が「にほんの里100選」に選ばれました。2013年には日本ユネスコ協会連盟より第5回「プロジェクト未来遺産」に和白干潟を守る会が登録されました。たくさん褒めていただき嬉しいことですが、まだ和白干潟のラムサール条約登録が実現していません。和白干潟がラムサール条約に登録されることは、国内法で和白干潟を守ることになります。国指定鳥獣保護区の特別保護地区に指定され、和白干潟の埋め立てや干拓、樹林の伐採や工作物の設置に環境省の許可が必要になります。和白干潟を将来に渡って保全するためには、法律で守ることが必要なのです。あきらめずに願い続け行動も続けられ、きっと願いはかなうと信じています。これからも和白干潟のすばらしさを伝え、保全活動を仲間とともに続けて行きたいと思っています。



和白干潟と私

新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

年会費 個人2,000円、団体5,000円

郵便振替 01720-4-2386

和白干潟を守る会

同封の振替用紙をご利用下さい

郵便局の受領書を領収書に替えさせていただきます。

山・川・海の流域会議 新春講演会「唐原川の植物と生き物について」を開催します！

■日時：2024年1月20日（土）10時～11時 ■場所：香住丘公民館

■講師：九州産業大学助手 古野正明氏

和白干潟を守る会 2024年度「総会」を開催します！

■日時：2月24日（土）12時～14時 ■場所：和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担など、みんなで意見を出し合い決定します。（引き続き2月臨時定例会議を開催します）



定例スケジュール

●定例会議（1/27, 2/24, 3/23）

毎月第4土曜日12～14時 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所…福岡市東区和白1-14-37きりえ館1階



会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

以下は参加自由です。仲間が待っています！

●クリーン作戦と自然観察（1/27, 2/24, 3/23）

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

●和白海岸探鳥会（2/11, 3/10, 4/14）

毎月第2日曜日9時～12時 JR 和白駅前の和白公園集合 主催：日本野鳥の会福岡支部

参加費：一般300円、中学生以下は無料、野鳥の会 会員は100円

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い（車の運転や記録）
観察会のお手伝い（写真撮影）
などです。参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち（その104）

ハマシギ（チドリ目シギ科 Dunlin）浜鶺 [環境省準絶滅危惧] [全長21cm]



（写真撮影：三宅 僚）

ハマシギは冬鳥として和白干潟を訪れています。雌雄同色です。ミユビシギやシロチドリなどと群れで行動することが多い鳥です。干潮時の干潟に降りて忙しく干潟をつつき、貝類やゴカイなどを食べています。群れで干潟上を飛び回るときには、方向転換時に一斉にきらりと白く光り、美しい風物詩となっています。1990年代には1000羽以上のハマシギが越冬していましたが、2000年代からは300～500羽に減ってしまい、最近は100羽以下や全く見られない日もあるほどに減ってしまいました。実はミユビシギも減り続けている鳥です。博多湾の開発の影響を深く受けている鳥たちです。ハマシギは北極圏やその近域で繁殖して日本各地で越冬しています。夏羽では腹が黒くなり、羽の茶色が濃くなります。また1000羽ものハマシギに会いたいものです。（山本 廣子）

守る会問い合わせ窓口

ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会／観察会（申込等）…山之内 芳晴 Tel 090-8412-2663

クリーン作戦 田辺スミ子 Tel 090-1346-0460

広報／調査／定例会議…山本 廣子 Tel 092-606-0012

干潟まつり 松尾 満子 Tel 090-9651-8489



【編集】松藤 真理奈・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元・今林 眞由美

<カット> くすだひろこ

次号は2024年4月発行予定

【編集後記】干潟まつりが皆様のお陰で無事終わりました。冬の干潟の夕日は海中大橋の向こうに沈みます。海面のキラキラの波や雲間から光の筋（天使のはしご）も美しく、その光の中を渡り鳥たちが飛び交ったりします。日によって表情が変わり、絵に描いても、写真を撮っても素敵です。（今林 眞由美）